

朝の館内放送

令和6年5月7日

おはようございます、市長の中村健です。

皆さん、伊奈忠次という武将はご存じでしょうか。

伊奈忠次は、1550年に現在の西尾市小島町に生まれ、33歳の時に徳川家康に仕えます。

戦国時代や江戸時代初期を扱ったドラマなどを見ると、戦にスポットが当たりがちですが、伊奈忠次は、関東を中心に、治水や灌漑（かんがい）工事、検地、新田開発など、内政面で力を発揮し、江戸幕府を支えました。

特に、利根川や荒川などの付け替え工事による恩恵はとても大きく、江戸幕府の財政基盤の確立に寄与した業績は計り知れないといわれています。

個人的には、伊奈忠次なくしては今日の東京の繁栄はなかったのではないかと考えています。

ちなみに、令和5年に放送された大河ドラマ「どうする家康」にも、少しだけですが登場しています。

そんな伊奈忠次の名前にちなんだ名称の自治体があるのはご存じでしょうか。

それは、埼玉県にある伊奈町です。

昭和18年に、当時の小針村と小室村が合併する際、陣屋が構えられていた郷土の偉人である伊奈忠次にあやかり「伊奈村」となり、昭和45年の町制施行にともなって現在の伊奈町になったそうです。

そのような経緯があることから、伊奈町では、伊奈忠次を前面に出した町おこしが行われています。

また、伊奈町のシンボルフラワーはバラで、西尾市と同じです。

そして、5月11日と12日の両日、伊奈町で「ばらサミット」が開催されることから、私もこの素敵なお縁に感謝し、サミット加盟自治体として自ら出席してきます。

西尾市が生んだ郷土の偉人・伊奈忠次、覚えておいてもらえればと思います。

以上で、朝の館内放送を終わります。